

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント
生予個 き測 力難 標を な1 育未 成未 社未 会未 を創 造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「生活科や総合的な学習の時間に植物を育てたり、体験したりする活動は、自分にとってためになりましたか」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 82%	4 3 4 1	【これまでの取組】 ・大田区独自教材「おたの未来づくり」では、6年生で研究授業を行い、単元のねらいや単元の指導計画、授業パートナーとの折衝などに1年間取り組んできた。 ・5年「おたの未来づくり」、3年「総合的な学習の時間」、2年「生活科」では、授業の中で児童が主体となって考え、活動する場面を設定できるよう、学習内容について検討しながら実施することができた。 ・エリア協議会や区教研を通して、各校の実践を同地域の学校に広めるとともに、他校の実践や他校からの意見をもとに各校の実践を改善することができた。 【今後の改善策】 「生活科」「総合的な学習の時間」「おたの未来づくり」の系統性を持たせた指導計画を作成することが必要である。 ・学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進するため、体験活動や自己評価する活動を年間計画に位置付ける。	A	6	●STEAM教育の1つとして、数年前からLEGOプログラミングの活動を取り入れ(現在は有志のみ)、情報技術など横断型の学びを実現できていると思う。 ●体験活動から子どもたちがたくさん学んでいることは、とても良いと思います。地域の自然、産業、人材を活かした教育活動を低学年から行えるよう、協力していきたいです。 ●予測困難な社会に対応する力の育成を重視した教育課程の編成・実施は、時代の要請に即した大変意義ある取り組みであると感じています。子どもたちには、主体的に課題へ向き合い、対話や協働を通して考えを深める力を、これからも着実に身に付けてほしいです。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 87%		1	●地域との関わりの中で、おたの未来づくりなどの教材に取り組み入れ、成果につながっていた。体系的な学習のために地域の一員として協力していきたい。		
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「区独自教材「おたの未来づくり」に向けて地域と連携した学習に取り組んでいる」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 82%		1			
		④地域の自然や産業・人材を活かした特色ある教育活動を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 87%		1			
お世個 お界別 た目 を標 担な 2う が人 材国 際育 成都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力的な態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら発音する機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「すすんで英語を話そうとしたか」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 99%	4 3 3 2	【これまでの取組】 ・担任と外国語教育指導員のチームティーチング、英語の歌などにより、英語や外国語に慣れ親しんだ。 ・英語コーナー(掲示物)を設け、外国の文化に触れる機会をつかった。 ・4.5年生においては東京グローバルゲイトウェイにて日本語だけで過ごす体験活動を行い、知っている英語や身振り手振りを使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育んだ。 ・全教育活動を通して、自他の生命・人権を尊重し、人々の心に対する思いやりや、いたわりの心を育んできた。 ・異年齢集団による活動として、縦割り班活動を実施し、他の学年の人とたがよとして、自主性や思いやりの心を育てた。 【今後の改善策】 ・豊かな人間関係を築くために異年齢集団による活動をさらに実施する。そのために委員会活動において、より責任感や使命感をもって活動できるように編成工夫する。 ・委員会、クラブ活動の企画、成果発表を児童の自主性のもと実施していけるように年間計画を見直す。	A	5	●英語の授業の様子を見ることがなかったので、次年度はぜひ見学したいです。引き続き縦割り班活動を通し、皆で協力する力をつけてほしいです。英語だけではなく、他国についての理解を深める機会があればと思います。 ●英語学習を通して世界とつながる力を育て、国際都市大田区を担う人材の育成への取り組みを心強く感じています。子どもたちが多様な文化や価値観に触れ、自分の考えを伝えようとする姿勢が育つことを期待します。また、地域に目を向けながら学ぶことで、自分たちが社会の一員であるという意識も育まれると思います。学んだことを実生活や将来の夢と結びつけて考えて行動できるとよいと思います。
		②我が国や郷土の伝統や文化の継承を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「書写や排字をつくるなど日本の文化にふれる取り組みをしている」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 70%		3	●英語や郷土に触れる機会や縦割り班での活動を通して成長を促していた。クラブ活動等でも一層の成長につながるよう、近隣の大人と関わりしていきたい。		
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 99%		2			
		④豊かな人間関係を築くために異年齢集団による活動を実施して、自主性や思いやりの心を育てる。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 70%		3			
た一個 人別 の目 基と 標 礎り 3が な個 性力 と能 力成 を身 展揮 す	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習を通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「自分のことと自分の命を大切にしようと思えますか」 4.71.1% 3.20.3% 2.13.3% 1.11.3% 肯定的回答 91%	4 3 3 3	【これまでの取組】 ・道徳授業の場面絵やワークシートを専用の棚に保管することで、教材を共有することができ、指導の充実につながることができた。 ・道徳授業地区公開講座などでは「主として人との関わりに関すること」をテーマに全学級で授業を行い、互いに思いやる心や、協力、礼儀について考え、豊かな情操心の育成を図った。 ・算数科で少人数指導を実施し、習熟度に応じた指導や個に応じた指導を展開したり、高学年では教科担任制を取り入れたことで確かな学力の育成を図った。 ・「コアデザイン」運動を取り入れた、ジャイアント教室など呼んだことで健やかな体の育成を図った。 ・道徳授業地区公開講座や日常の授業では「命を大事にする」教育に取り組んできた。 ・5年生は最高学年に向けての気持ちが高まったと感想を述べる児童も多数いた。 【今後の改善策】 ・道徳教育の指導方法や内容にばらつきがある中で、校内研修や基本的な型をOJTや道徳教育推進教師の師範授業などを通して全教員に周知していく。	A	5	●5年生の、保育園との授業はとも良かったです。それぞれが年長さんのこともたらにどう説明するよいか、真剣に取り組んでいました。 ●道徳地区公開講座は、保護者の参加が少なくて残念でした。たくさん保護者に参加してもらえ工夫があると思います。 ●一人ひとりが自分の個性や能力を発揮するための基礎となる力は、子どもたちの将来を見据えた大切な取り組みであると感じています。日々の学習や学校生活を通して、子どもたちが自分らしさを大切にしながら、少しずつ自信を身に付けてほしいです。また、得意なことや苦手なことを認め合いながら学びながら、互いを尊重する心の育成につながるため、今後も丁寧な支援をお願いいたします。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「早寝早起き朝ごはん」を継続していますか。 4.30.3% 3.29.3% 2.25.3% 1.8.2% 肯定的回答 59%		3	●心、学力、健康に効果的な様々な取り組みを行っていた。		
		③体育や保健体育の授業など、様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「道徳授業地区公開講座や日常の授業では「命を大事にする」教育に取り組んできた」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.25.6% 3.17.6% 2.7.6% 1.11.1% 肯定的意見 82.6%		3			
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.25.6% 3.17.6% 2.7.6% 1.11.1% 肯定的意見 82.6%		3			
学個 校別 力目 ・標 教4 師力 を向 上さ せま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力向上を促す。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力向上を促す。あわせて、教師がやりがいをもって働けることができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「先生たちは子どもたちの実態に合わせて授業をしている」 4.33.6% 3.56.0% 2.22.2% 1.15.5% 分らない6.7% 肯定的回答 90%	4 3 4 1	【これまでの取組】 ・月に一度、校内OJTを実施した。教職員が専門性を生かして基本的な授業の進め方について指導を行った。研究の手立てについて共有したりして、授業改善に努めた。 ・教職員が専門教科の校外研修に行った際には、その都度、研修内容を校内の教職員に還元し、学校としての専門性向上に努めた。 ・校内研究では、「ウェルビーイングを高める児童の育成」について研究を行った。「なりたて自分の実現」を目指し、年間3回の研究発表を行った。 ・職員会議や打ち合わせによる教育相談体制の充実を図り、協議時間を短縮できるようにした。その分の時間を教材研究やブロックでの情報共有の時間にあてることができた。 【今後の改善策】 ・学校経営方針に基づき、来年度の研究は「自由進度や複線型」をサブテーマと考えていく。地域の特色を生かして、各教科の学習内容に即した体験活動や校外活動を行い、児童の学習のさらなる充実をはかっていく。	A	4	●教師のやりがいは、業務が適正かどうかにかかわらず関係してくると思います。適正化に向けて協力できることはぜひ行いたいと思っているので、お声がけください。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケート「学習内容の大体が分っていますか」 4.49.0% 3.17.2% 2.8.9% 1.1.6% 分らない5.3% 肯定的回答 89.1%		4	●一人ひとりが自分の個性や能力を発揮するための基礎となる力は、子どもたちの将来を見据えた大切な取り組みであると感じています。道徳授業地区公開講座の実施や、算数科における少人数指導、コーディネーショントレーニングを通して、自分の考えを持ち、学びに向かう姿勢が着実に育まれていることを心強く思います。		
		③教職員の業務適正化等に取り組む。児童・生徒に教員が向き合い、時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「担任以外に学年の先生やカウンセラーや養護教諭など、子どもが相談できる機能がある」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 55.9%		3	●校内OJTを継続的な実施により、教職員一人一人の指導力や共通理解が高められると思います。校内研修の推進により、子ども一人一人の成長や自己実現を大切にできる教育が着実に実践されていることが伝わります。これらの取り組みが、学校全体の教育力を高めるとともに、児童が安心して学び、自分らしく成長できる学校づくりにつながると考えます。		
		④校内研究・校内研修を活性化し、教員の指導力向上に努力している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.25.6% 3.17.6% 2.7.6% 1.11.1% 肯定的意見 82.6%		3	●相談環境やサポート体制が整っていた。		
た自個 め別 の目 学し く5 い支 き援 いき まど 生き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて支援機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「学校の外で、何かによろせんとしたり、がんばっていることがありますか」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 55.9%	4 3 3 1	【これまでの取組】 ・6月と11月の子どもの心サポート月間では、学校生活調査や学級集団調査(WEBQ)の結果を分析し、スクールカウンセラーとの面談や教育相談を実施し、悩みや不安などの早期発見や早期対応に取り組んだ。 ・いじめに関するアンケート(各学年1回以上)、スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図り、「未然防止」「早期発見」「早期対応」を行った。 ・不登校児童へは、管理職、担任、養護教諭やスクールカウンセラーが情報共有し、組織的な取組をして児童や保護者を支援してきた。 ・生活指導の充実のため、問題行動対応サポート専門員との連携を図り、児童が安心して学校生活を送ることができるようになった。 ・生活指導支援員や生活指導補助員の支援や必要に応じて警察、SSW、SC、児童相談所や子ども家庭支援センターなどの外部諸機関を活用してきた。 【今後の改善策】 保護者アンケートの中で「学校は、いじめを見逃さない、いじめがあったときには対応している。」の回答に対し、「分からない。」の回答が29.8%あった。毎学年児童にアンケートを実施して、関係諸機関と連携していじめ対策をしている等、保護者へ伝え、知っていただく必要がある。	A	3	●いじめの対応について、わからないという回答が30%近いというのが残念です。学校の取り組みについて知ってもらう機会があるとういではと思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 55.9%		3	●校内OJTを継続的な実施により、教職員一人一人の指導力や共通理解が高められると思います。校内研修の推進により、子ども一人一人の成長や自己実現を大切にできる教育が着実に実践されていることが伝わります。これらの取り組みが、学校全体の教育力を高めるとともに、児童が安心して学び、自分らしく成長できる学校づくりにつながると考えます。		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「担任以外に学年の先生やカウンセラーや養護教諭など、子どもが相談できる機能がある」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 55.9%		3	●相談環境やサポート体制が整っていた。		
		④問題行動の予防や解決に向けて、規範意識の確立に取り組んでいる。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.25.6% 3.17.6% 2.7.6% 1.11.1% 肯定的意見 82.6%		3			
り安間柔 ま心と軟 すな安 で目 教創 造6 環 境 な 学 習 空 を つ く	学校施設について、ICT環境等の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心な学校生活づくりを推進して、学習環境を整備している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「タブレットや本などを使った学習をしていますか」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 85.5%	4 3 4 1	【これまでの取組】 ・ICTを用いて、一人一人に適した学習環境を整えることができるようになっている。 ・避難訓練の事前指導を徹底させることにより、より安全に避難をする訓練を積み重ねることができている。 ・6年生が防災教育に取り組み、防災意識を高めることができた。 【今後の改善策】 ・安全指導の内容を全校で共通理解するために、来年度は全校朝会時に安全指導を行う。	A	6	●6年生の防災教育は、何を行ったのか見ることができず、残念です。全校朝会の時に安全指導を行うのは、とても良いと思います。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 85.5%		4	●ICTを効果的に活用し、一人一人の理解度や特性に応じて、タブレット端末を用いた学習が行われている点について、保護者として大変心強く感じています。子どもたちがタブレットを活用しながら自分のペースで学びを深め、主体的に取り組める環境づくりは、これからの時代に欠かせないものであり、学校の継続的な工夫をお願いいたします。		
		③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 85.5%		4	●ICTを用いた取り組み、安全への備えなどに全校的に取り組んでいた。		
		④早寝・早起き・朝ごはんの推進を図るために家庭における基本的な生活習慣の確立を啓発している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 84.8%		3			
学地学 校校 域各 をコ・目 つミ家 標7 ユビ リニ マ地 すイ 域の 核 連 と携 し協 働の 働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「早寝早起き朝ごはんを継続していますか」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 59.6%	4 3 3 1	【これまでの取組】 ・コミュニティスクールの3年目として、学校運営協議会を円滑に実施できた。学校運営方針について情報共有し共に教育課題の改善を図ることができた。 ・学校支援地域本部と連携し、ゲストティーチャーを呼んで学習や地域の声に合わせた、教員の負担が大きい軽減された。 ・学校支援地域本部の運営によるわくわくスクールでは、様々な体験的な魅力的なプログラムで児童の興味、広がりや、人間関係形成能力の向上が図られた。児童の思考力を育むレゴなど児童の能力を育む活動が数多くできた。 ・家庭学習については学年で取組を決めて、保護者と連携して呼び掛けすることで定着を図ることができた。ICTを活用して家庭学習の課題を出した。 【今後の改善策】 ・学校行事やその内容について、学校運営協議会で検討したものを早めに保護者や地域へ連絡・周知し、教育内容の協力や理解をより図れるように努める。また、地域の方々から「児童にどのような力を付けさせたいのか」を明確にし教育活動に生かすようにする。 ・持続可能な組織的な学校支援本部にしたい。	A	5	●今年度、保護者のボランティアグループ ボラ隊が発足し、授業のサポートやお困りごとの手助けになった。 ●自己評価は4だと思ふ。 ●今年度、学運協での話し合いはとても良いものだったと思います。教員も子どもも、CSやなかよし中級の活動について、よい理解をしていただけたのがうれしかったです。 ●PTA活動については、区との連携を取り、家庭に向けた情報発信する機会を作れるよう、協力していきたいです。
		②意下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全確保に係る取組を地域の協力により実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 59.6%		3	●学校運営協議会協議会を通して教育課題を共通認識として捉え、改善に向けた前向きな意見交換がなされていること、学校と地域が協働する体制が着実に根付いていること、ゲストティーチャーによる学習は、子どもたちが校外の方から直接学ぶ貴重な機会が生まれ、教科書だけでは得られない学びがあり、子どもたちの学習意欲を高め、将来への視野を広げていると思います。わくわくスクールで児童の興味・関心が広がるとともに、友達や地域の方々と関わる中で人間関係を築く力、社会性の向上を期待します。		
		③家庭学習に関する情報の発信や、またはその双方を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「学校はコミュニティスクールとして地域やPTAと連携した教育活動を行っている」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 84.8%		3	●学運協が有効に機能していると感じている。引き続き一員として協力していきたい。		
		④早寝・早起き・朝ごはんの推進を図るために家庭における基本的な生活習慣の確立を啓発している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4.8割以上 3.7割以上 2.6割以上 1.6割未満 肯定的意見 84.8%		3			